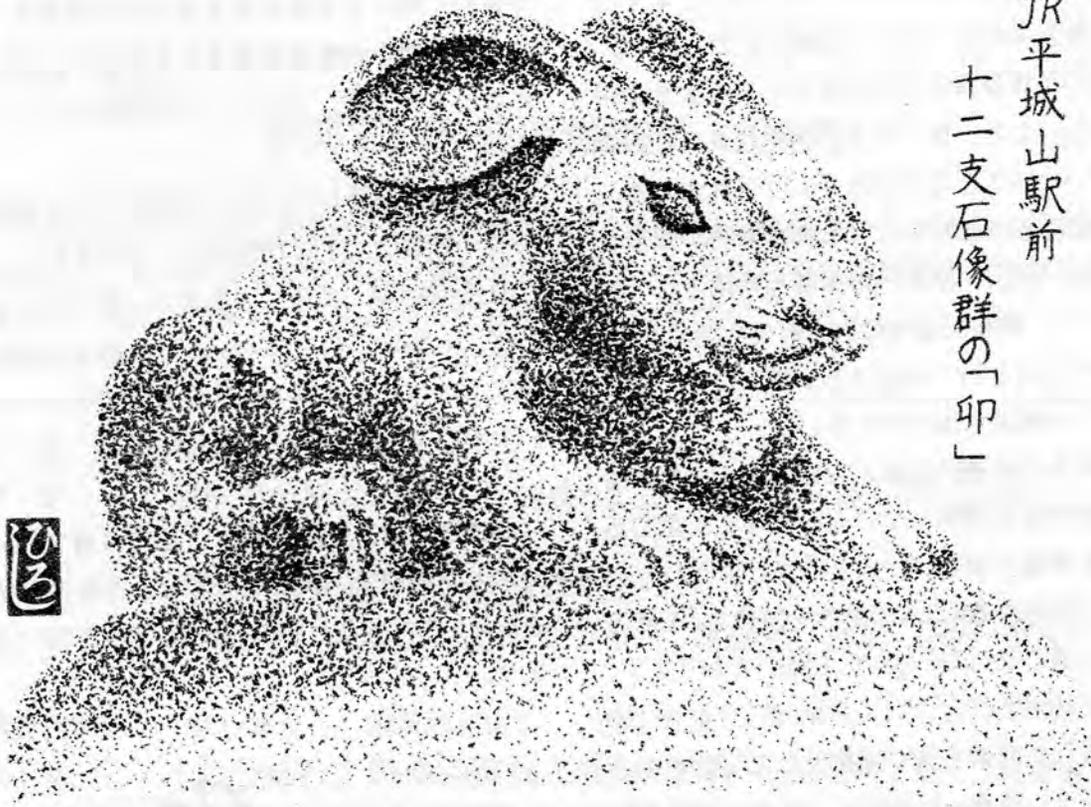




奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



ひる

JR平城山駅前
十二支石像群の「卯」

- * 年頭あいさつ（会長）
- * 「佐保自然の森」がスタート！！
- * ならやま（レポート、蕎麦クラブ・芋煮会：大好評！！）
- * 自然俳句・癒しの散歩道
- * ポカポカ陽気のハイキング！！12月例会
- * リレー随筆「お元気ですか」・・・＜原稿募集中＞
- * 毛虫・アンコールにこたえて！「講座」③
- * 鳥シリーズ・地域情報他
- * <大募集中>例会「楽しい行き先待ってます」！！
- * 1・2月行事案内・・・新春講演会・野鳥観察会
- * 今月の表紙・ペン画に寄せて

	1
	2
3	5
	7
	8
	9
	10
11	13
	13
	14
	15
	16
	17

緑=森林からの発信

新年おめでとうございます。会員の皆様のますますのご健勝・御活躍を心よりお願いいたします。平成 23 年は「奈良・人と自然の会」が発足して 10 年になる記念すべき年でもございます。より一層のご支援を本年もよろしくお願いいたします。

昨年秋の予算委員会でも外国資本による土地取得に規制がないこと、従ってその保有状況の把握がなされていないことなどが取り上げられました。北海道における外国資本による森林取得が報告され水源確保、治山・治水への影響も指摘されました。隣接三重県の大台町で水源地 3000 ha が売りに出され、中国の方が購入調査に役場に訪れたとの報道も出ておりました。

森林を樹木の経済的価値からのみ考え、他の優れた多くの機能を理解していないがゆえに生じる憂慮すべき課題ではないではないでしょうか。

100 年の裸地に 60 万本の樹木を植栽し「大阪万国博記念公園の森」は作られたと聞いております。

〔跡地利用計画委員会〕は〔万博跡地三分の一 100 ha を多様な生態系を持つ森林として復活させる〕という方向を示し推進したのです。40 年も前のその先見性・卓越した考えは、素晴らしく、当時の高度経済成長の状況を思う時、その考えが採択され推進されたことは奇跡のようにさえ思えます。失われた自然を回復する壮大な計画は、実現されています。

“みどりの街”構想を持つ橋下大阪府知事は、大阪駅の北 旧国鉄貨物ヤードを、「森にしては！」と発信し、個人住宅の建て替え時に木を植える緑化策をとるよう誘導する〔敷地緑化で建ぺい率緩和〕を 23 年度から実施しようとされています。

こうした動きを積極的に捉え、得た知識や活動

奈良人と自然の会 会長 阿部 和生
を発信し、“豊かな自然を保全してゆこう”という理解者を増やしたいと思います。日常生活の身近なところで、自然と接する機会を多くし体感する、日常の一面に必ず緑があるような生活風景 そうした取り組みの機運の高まりを着実に実現してゆきたいものです。そして その輪を広げたいのです。

実践活動を通して、という私達の「会」理念は、発言・発信に大きな力を添えてくれます。

自然=緑=森 の持つ大きな力「森が存在しなければ、人類は存在しない」という原点を確認し、微力であっても森林の保全を推進する力になりたいと感じています。

〔多様な生態系を持つ森林〕、を守り育て「かけがえのない地球」と共生することをさまざまな機会を捉え、皆さまとともに 発信してゆきたいと思えます。



「佐保自然の森」の整備がスタート

7月1日、吉岡溥先生(元・県立奈良高校長、学校緑化等研究者)に現地視察を依頼した。現状の地形や植生は、概ね保全しつつ、一部除伐する樹木等について示唆をいただく。

そして、生物多様性を復活させる植栽計画の作成をお願いした。

9月10日、畑明宏氏(積水ハウス株式会社)に多忙な研究の合間を縫って、現地視察をしていただいた。雑草が生い茂り、7月の時とは随分と様相が異なっていたが、基本的なコンセプトについてのアドバイスを与えていただく。

9月の幹事会において、プロジェクト推進役として、鈴木、藤田の2名が委嘱され、阿部会長、川井顧問、古川祐、弓場、森、大沢、池田、井戸、平岡、寺田の各氏と鈴木、藤田をメンバーとして、9月22日に第1回プロジェクト会議を開催し、活発な討論を経て、以下のとおり整備の基本方針をまとめた。

(1) 名称について

旧地名を大切にすることで名称を考え、

「佐保自然の森」とする。

(2) コンセプトについて

我々の活動において、地域の自然の再生・保全はどうあるべきか。

生物多様性豊かな森を実現するための植栽計画や方法と技術的な問題、地域住民との調和や黒髪山フィールドとの連携、等々についても考慮したうえで

- ① 生物多様性豊かな、明るい森をつくる。
- ② 年中、花が咲き、実がなり、昆虫や鳥たちが生活できる空間をつくる。
- ③ 出来る限り、現存の樹木や草は残す。
- ④ 環境変化に対応出来る森をつくるため、ランダム集中配植をし、樹木間の競争関係を生み出し、同種の樹木であっても、異なる年齢の樹木を植える。

(3) 今後の進め方

- ① 5年計画で整備し、以降も長期サイトで整備観察を続ける。そのために必要なスケジュールと組織づくりも考えておく。
- ② 今年の秋・冬は、区割り、不要な樹木の伐採、作業路整備等を行い、来年秋から植樹を始める。
- ③ 県に対しては、整備コンセプトと植樹計画案(5カ年計画)を早期に作成し提出する。
- ④ 9月30日(木)5~6人で現地視察と除伐木のマーキングをする。

10月15日に風致景観課へ「佐保自然の森整備計画」(案)を提出して了承され、細部については、協議を重ねていくことになった。

11月12日に現地打ち合わせを実施。観察ルート計画の杭打ちを行った。

11月25日、全員が除伐木伐採と大型の不燃塵等処理の2班に別れて活動。塵類は集めても集めても次々と出てくる。約3時間で軽トラック5台分が集まった。除伐処理は、午後も引き続き行い、12月2日に残りの作業も完了し、年内の整備作業は一段落となった。

来年2月頃に観察路等の整備工事が実施される予定である。



(文責 鈴木)

ならやまプロジェクト・レポート 22年12月

11月25日(木) 晴 参加者 35名

・佐保自然の森整備プロジェクトがスタート。ベースキャンプから500mほど離れた場所へ全員が移動して、計画図面に従って、樹木の除伐や放棄ゴミの回収に掛かる。午後2時までに作業は殆ど完了。年明けから、県が散策路や駐車場所の工事を行い、来年度から「佐保自然の森構想」による植樹が本格的に始まります。

11月26日(金) 晴 参加者14名

・シニア自然大学ビオトープ科 9名が来訪。池の構造や水質、流入水問題、生物の状況などについて、ビオトープ作りの専門家としての貴重なアドバイスを頂きました。

12月2日(木) 晴 参加者36名

・E地区のコナラ林の整備行の開始。コナラの密生の具合や生育状況を判断して適切な構成になるよう間伐する。間伐材は乾燥を待ってコマ切りし、椎茸のホダ木として2~3月に植菌します。
・梅林に梅の苗木「茨早生」3本を植樹。既にある南高梅は自家受粉しないので交配用に植えました。

12月9日(木) 曇り 新蕎麦祭り 43名

・明け方は、雷も聞こえる不安定な天気でしたが、43名もの皆さんにご参加いただき、新蕎麦祭りの前評判は上々。主催する蕎麦クラブのメンバーにとっては、種まきから蕎麦打ちまで、汗を流し、腕を磨いてきたこの一年の成果が試される日です。別会場では朝から3人のメンバーが60人分の蕎麦を準備。「手打ち蕎麦 ならやま庵」の看板の掛ったならやま会場では、天婦羅、トロロ、辛み大根、カッポ酒が準備され、蕎麦の茹で上りを待ちます。

・「冬の雷そば人たちを祝ひたり」

12時、蕎麦クラブの会員でもある川井顧問よりご祝儀の句が披露されて開宴。参加者の評価はい

かにと緊張する中、「美味しいもんだな」と感嘆の声に、ほっとする蕎麦クラブのメンバー。「全てならやま産の手作り料理」の新蕎麦祭りは、2時間で60人分の蕎麦もきれいに無くなり好評裡にお開きとなる。まずは目出度し 目出度し



12月16日(木) 曇り 参加者36名。

・コナラ間伐 今冬一番の冷え込みも、里山組にとっては絶好の仕事日和。終日、コナラの間伐整備に取り組みました。コナラは枝つきのまま置いて水分を抜き、来月、切り揃えホダ木にします
・花壇づくり 遷都1300年祭会場で使われていた花壇用の木材を、県の手配でならやまの花づくりに再利用することになり、自転車道路沿いに花壇を設置しました。景観を彩り、通る人たちの目を楽しませる花作りに、会員の皆さんのアイデアとお力添えをお願いします。

12月18日(土) 晴 芋煮会 参加者51名

・今年の掉尾を飾る恒例の芋煮会は、シニア自然大学の実習生22名が参加する大盛会。定番のイモ煮鍋、桜島大根炊き、名物カッポ酒が揃って、ならやまの味はオンパレード。鈴木リーダーが趣向を凝らした桜島大根の重量当て、難読文字クイズ、野菜クイズで、大いに盛り上がり、一年の努力を締め括るとともに、来年の活躍を誓い合いました。

(当日の様子は別掲の記事をご覧ください)

(古川 祐司 記)

ならやま・蕎麦文化クラブ 奮闘記

「蕎麦の栽培から、収穫、蕎麦打ちなど、蕎麦に関する知識、技能、文化を広く勉強し、豊かで楽しいならやまプロジェクトに役立ちたい」と、蕎麦文化クラブが幹事会の承認を経て発足したのは22年5月。現在のメンバーは19名である。

クラブの主な活動の一つは、蕎麦打ちの技術の習得。秋に「ならやまの新蕎麦を打つ」を目標に、田辺保さん（蕎麦打ち初段シニア15期生）を講師に迎え、月1回の自主研修を行う。また、希望者は交野市にある蕎麦道場で腕を磨く。こうして実技研修への参加は、延べ101回・人に達した。

5月、有名な「笠そば処」（奈良県桜井市）を訪問。（有）荒神の里・笠そばの藤井敬三社長から、蕎麦作りで村起こしに成功するまでの苦心談を拝聴する。

8月猛暑の中、本格的な蕎麦栽培の開始。昨年藪を切り開いたC2地区を新たな蕎麦畑に仕立て、a地区のジャガイモ畑跡と合わせて約7アールの耕起、畝作り、種まきに、蕎麦文化クラブのメンバーが汗を流す。品種は「信濃1号」を主体に生駒の大粒種。ところが、C2地区の畑にハトの大群が襲来、蕎麦の種を殆ど食べてしまうという珍事が発生。北海道の「北早生」を追い播きしたため、結果として3種類の蕎麦が混生することとなった。

11月、刈取り、ハサ掛け、脱穀、選別の一連の作業も、メンバーの協力で順調に進行。収穫した蕎麦は13kg、この製粉には一苦労する。3種類の大粒小粒が混在し、乾燥もまちまちでの蕎麦、これを何とか一人前の粉にしてくださいと、特別の伝手で京都の老舗の河村製粉さんをお願いする。随分苦労されたそうだが、見事に香り

の高い「挽きぐるみ」（甘皮も一緒に製粉）の蕎麦粉7kgに仕上がって送られてきた。

12月9日、新蕎麦祭りの開催日は、明け方に雷鳴が聞こえる不安定な天気だったが、43人の参加を見る大盛況。

60人分の蕎麦を打つために、朝から平城西公民館で田辺、四宮の両氏が取り掛かる。会場では駆けつけてくれた名人鶴見達也氏（シニア9期花1班）の蕎麦打ちデモンストレーションが参加者環視の中で行われる。かくて12時までに首尾よく60人分の蕎麦が打ち上がって準備完了。

「冬の雷そば人達を祝ひたり」のご祝儀の句が添えられ、川井顧問の乾杯で祭りがスタート。文字通りの「打ちたて、茹でたて」の蕎麦が配られると、皆さんから「美味いもんやなー」という感嘆の声。春からの努力が一遍に報われたような達成感を味わった蕎麦クラブメンバー達。用意されたものは天婦羅、大和芋、辛み大根など全てならやま特産。カッポ酒で盛り上がり、始めての新蕎麦祭りは大成功、会員にとっても最高の好日となった。

そばクラブは、今年から第2年目に入り、やりたいことはまだまだ多い。まずは、年間50kgの蕎麦の収量確保。次に、全員蕎麦打ち初段の取得。さらには日本の誇る蕎麦文化の探求などである。しかし、何より大切なことは、蕎麦好きのメンバーの輪がさらに大きく広がることだ。

ならやまで、蕎麦を「作って、眺めて、打って、食べて」のどれか一つでもやってみたい人、いつでも大歓迎です。

あなたも、どうぞ

（蕎麦文化クラブ 古川祐司 記）

一年の 納めの味や 芋煮会



冬の日差しに恵まれた12月18日、ならやま自慢野菜の「里芋」とごぼうなどを煮込んだ、ならやま恒例の「芋煮会」が、51名もの会員やシニア自然大学校実習生の参加により開催された。土壌改良の効果と、猛暑の中での水管理や土寄せ等の行き届いた世話が功を奏したのか、例年以上の出来栄である。

8名の実習生が、農園担当グループの手ほどきを受けて、芋掘りに挑戦。備中鍬を振り下ろす手つきも危なげながら、数株を掘り起こす内に次第に要領も良くなり、30株くらいを掘り上げた。

早速掘り採った芋の泥と表皮を落とすため、中西達夫さん手作りの芋洗い器で体験実習にチャレンジした。芋洗い器を知っていたのは、8名中1名のみで、「これは良い!」「ダイエット」できるかもと言いながら、交替しながら次から次へとこなしていく。

「自分たちは、種芋の植え付けや管理作業はしてこなかったけれど、収穫した芋を賞味できるのは、大変嬉しいなあ」、「有機栽培で育てた本物の味を一刻も早く味わってみたい」と、異口同音に感想を漏らしつつ、豌豆の誘引作業なども体験。

実習は、里山・農園・竹工作の3班に分かれて実施されたが、午前中で無事終了し、阿部会長が、会の歩みや運営方法、そして実習生に対する歓迎の言葉とともに、大学校卒業後は、是非とも入会されるよう切望する旨の挨拶をし、待ちに待った「芋煮会」がスタート。続いて川井顧問が、「一年の納めの味や 芋煮会」の名句を織り込み、参会者の活躍と会の益々の発展を祈願して乾杯の発声。

今年は、芋煮鍋だけでなく、「だいご炊き」も並べられ、地産地消(彩旬味)、安全安心の有機野菜鍋の前には、たちまち行列ができる。

とろけるような里芋に「美味しい!」「美味しい!」の連発。また、桜島大根をふんだんに入れ、油揚げと煮込んだ「だいご炊き」にも次々と手が伸びる。京都千本釈迦堂に次ぐ“味自慢”との声も上がる。

いよいよ会も盛り上がりを見せた頃、「桜島大根」重量当ての当選者を発表。やはり猛暑のため、灌水作業も欠かさなかったが、発芽がやや不良であり、昨年よりも小振りであった。4名の方々が、景品の桜島大根をゲット。ちなみに、ギネスブックに登録されているのは、31, 1kgで胴回り119cmのものだという。鹿児島県の地元では、2月頃まで成長し続けるようだが、大和盆地などの内陸性気候の下では、凍結などのため、その頃まで露地に置いておくことは無理なようだ。

続いて、①～③「野菜クイズ・10問」、④「難読地名・5問」、⑤「難読野菜名・5問」などを展開。

各部門の問題を3問ずつ紹介すると、

- ① 「胃腸のほうき」と言われる野菜とは?
- ② ビタミンCの発見に貢献した野菜とは?
- ③ 裁判になったことのある野菜とは? etc
- ④ 「一口」、「化野」、「相楽」etc
- ⑤ 「芋茎」「通草」「椴松」etc

次々と、珍答、迷答そして名答が飛び出す。景品の「ならやま産野菜」に、正解者は一喜一憂。いやいや“多喜”(大喜び)。盛り上がったクイズ大会も和気藹々の内に終了し、親睦の輪が一段と広がりを見せた。



(文責 鈴木)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

守口 京子

12月18日(土) 冬が来て木々は葉を落したり、冬芽をつけたりして過ごしています。藪を刈ったあとの一角に一面の緑の林床が出現したので、行ってみると、ウシハコベの群落でした。いきいきと葉が茂り、白いかわいい花をたくさん咲かせています。周りの雑木林によって冷たい風から守られ、木漏れ日の当たる湿った所はウシハコベにとっては絶妙の環境だったのでしょうか。「里山林の整備→眠っていた植物の出現」という「ならやまの法則」を実感しました。野山…イヌガラシ、ウシハコベ、コナスビ、ヤツデ、フユノハナワラビ(孢子葉)

実…フユイチゴ、サカキ、クチナシ、ネズミモチ、ソヨゴ、マンリョウ、ヒサカキ

フユノハナワラビはシダの仲間では花をつけるわけではありませんが、茎をずっと伸ばしその先の葉に黄褐色の胞子をいっぱいつけている様子は花のようきれいです。A地区の南斜面に咲きました。



ならやま鳥だより

小田 久美子

12月13(月) 小雨 8種 53羽 観察後、カラ類の混群が15程と、セグロセキレイ・ジョウビタキのジョー君が現れました

蕎麦クラブ (5月笠蕎麦の見学)



これから
おいしい蕎麦を
打てるようになりたいあ!!

12月23日
ならやまの最終日
門松作り
力作ができました
来年もよろしく



自然俳句欄

大根引く男女の裸形現れり

秀夫

大根収穫。自然の造形の妙。奇形が芸術に見える。

枯葉にも飛びたき風のありにけり

秀夫

枯葉にも意志がある。十二月の風に意を得たり。

冬きこりざれや樵夫大樹を持って余す

秀夫

伐倒から倒木の整備に手を焼く。大樹、満身の力を咲う。

おん祭に友のかほあり槍の先

秀夫

弓場・森・谷川 各氏。大名行列に参加。武士・奴の姿にほれほれす。

芋煮鍋囲むシニアの恵比寿顔

鈴木 未一

笹酒とだいに焚きにも願をかけ

鈴木 未一

※ 年が変わります。皆さんの投句をお待ちしております。

<癒しの散歩道>

夢の花開く新しき門出に寄せて

谷川 萬太郎

- (1) 淡雪の光輝く朝明けに 新たなる門出の夢の花開く
目映い陽ざし零れ出て 遥かな眼差し静かに瞬きて
澱みない汚れなき魂は 湧き出ずる泉のごとく澄み
吐く息の白さの向うに 待ち望む新しき希望の星が
- (2) 野辺の端の守り地蔵が 心深い暖かな人になれよと
路往く旅人の幸せ願い 黙って優しく微笑浮かべる
悟りの歴史の境地には 情け恋しい自然の神が宿り
目覚める里山の雄姿に 清々しい旅立ちの鐘は鳴る

【12月例会報告】 「薬師寺から秋篠寺を訪ね、忘年会へ」

担当 寺田 孝 塩本勝也

1. 例会

① 実施日 12月6日(月) 10:30 西ノ京
前出発～15:45 西大寺駅前解散

② コース 薬師寺—唐招提寺(拝観)—
垂仁陵—喜光寺—菅原天満宮—西大寺—秋
篠寺(拝観)

③ 参加者 26名(男16+女10)

当日は小春日和でハイキングには最高の天
候で、皆さんの精進のお陰と幹事は一安心。

○ 最初の薬師寺は、改修を前にした東塔を西
と比較しながら見ようというのが狙いでし
た。鴨などの冬鳥が群れる大池越えの両塔
は、諸堂の麓と若草山、さらに青空をバックに素晴らしい眺めでした。

「絵葉書のように」と皆さん感激。

○ つづく唐招提寺では平成の大修理が終わった
金堂を中心に、各種の天平時代の建築物
や諸仏を思い思いに拝観、散策。個人的に
は新宝蔵の破損仏如来形立像を久し振りに
鑑賞しました。

○ 昼食は、ポカポカ陽気の唐招提寺北側、秋
篠川沿いの緑地公園でとりました。

○ 昼一番は垂仁天皇陵へ。田道間守のお墓と
いわれる小島の樹木に群れる白い鳥に、「あ
れはなんと言う鳥だろうか。」アレコレ言い
合って「年老いた川鶴であろう」というこ
とになりました。(?)。

○ 喜光寺では本堂「試みの堂」を塀越しに鑑
賞。すぐ隣の日本三大天満宮のひとつを言
われる(?)菅原道真の誕生地の菅原天満
宮を参拝し、一路西大寺へ。

○ 西大寺では皆さんどの時代の西大寺を探し
たのでしょうか。称徳上皇時代の豪壮な伽藍
を想うのか、中興の祖叡尊時代の真言律宗、

根本道場の伽藍だったのでしょうか。また
弓削道鏡はこの寺にどのように関わったの
でしょう。

○ さて最後は秋篠寺を拝観しました。皆さん
お疲れのようであちこちに座り込んで鑑賞。
楽しみにしていた苔むした境内も落ち葉に埋
まれていましたが、掃除された一隅に苔と落
ち葉の風情が良くあっていました。もちろん
お目当ての伎芸天立像は、本当にふくよかな
美しさが楽しめたようでした。

ラストスパートで西大寺駅前へ。皆さん疲れ
ながらも無事に到着し、解散しました。

案内説明の少ない史跡めぐりは、ご不満の方
もおられたかもしれませんが、最高のお天気
とわれらの奈良が今年遷都 1300 年という豊
かな歴史に免じてお許し頂きたいと思ってい
ます。有難うございました。

2. 忘年会 12月6日 16:00～18:30

・ 場所 「西大寺 味楽座」

・ 参加者 32名(男23+女9)

阿部会長の挨拶に続き、川井顧問乾杯で始まり
ました。この一年を振り返りテーブル毎にいろ
んな話題で盛り上がりました。宴が進むに連れ
てテーブルメンバーも入れ替わり、皆さん日ご
ろのお付き合いの薄い人同士も歓談されていま
した。豊島副会長の中締め、水本さんの一本締
めでお開きとなりました。例年になく多くの方
のご参加をいただき、有難うございました。



リレー随筆 お元気ですか！



年賀状のこだわり

橋本 由美子

我が家は、結婚して以来ずっと写真入年賀状にしています。こだわりは家族揃って、干支にちなんだものを入れることです。'85年丑年「神社のなでうし」と。'86年虎年は長女とトラのぬいぐるみを抱いて。その後は、兎、馬、羊、愛犬と一緒にだったり、鼠年には三姉妹にミッキーのぬいぐるみを持たせたり。子どもが小さいうちは家族写真を撮ることは容易でしたが、思春期には「いつやめるの？」と反発されました。しかし、年末に“次の年の年賀状の写真を撮ること”が我が家の年中行事となりました。やがて子どもが大きくなると予定が合わず、早朝に撮ったときもありました。年賀状だけのご挨拶の人もありますが、嬉しいことに、年賀状を見て連絡をくれる親戚や友人がいます。さて、昨年、長女はイタリアに留学し、次女は結婚をしました。急に寂しくなりました。にぎやかな五人家族の時代はあつという間だった気がします。三女もいずれ我が家から旅立ち、それからは年賀状はまたもとの二人、老夫婦の「元気ですよ」の印になるでしょう。

リレー随筆「お元気ですか」

投稿募集のお願い

「奈良人と自然の会」には多くの会員さんがいます。なかなか皆さんとお会いすることができません。

機関紙の上でお会いできたらうれしいと思ひ企画しました。

あなたのお力を貸していただけませんか、400字以内です。「編集」まで

自然に古代歴史を重ねる

高松 秀行

奈良・人と自然の会の活躍はめざましいが、小生は名目会員に甘んじている。

シニア自然大学で学んで3年になるが、世界遺産に関心が高まり、自然学に歴史学を重ねてみると楽しいかと考えるようになった。

平城遷都1300年を契機に、4月より歴史学古代の講座で学んでいる。この時代の歴史上重大な出来事や、皆の関心事が多くある。たとえば邪馬台国の所在は、卑弥呼の陵墓は、大和王権の成立ち、歴代の天皇と有力豪族の系図、神道と仏教伝来、飛鳥の都と難波の都、大化の改新と壬申の乱、行基の活躍と大仏造営等々である。

古代史の文献資料の、古事記 日本書紀 風土記に中国の古文書を使い学ぶ。幸い畿内とりわけ奈良には、多くの古代遺跡が点在する。古墳鏡土器の出土品 神社仏閣 遺構等の考古学資料で検証 確認加味できる。

そのため 飛鳥 山之辺 斑鳩 吉野 平城 難波の現地を探訪している。文献で深めた知識に現地での検証で、より親しみ 理解を深める。更に何気なく歩いていた道中ハイキングが、自然大学で得た 樹木や草、花、鳥の知識が役立ち、安らぎと充実感を満たしてくれている。

現在平城遷都まで講義がすすんだが、平城京ならやま周辺 佐保 佐紀についても見識を深めたい。さらに平安 鎌倉時代まで学び、自然学と歴史考古学の両立が出来れば楽しいと考える。

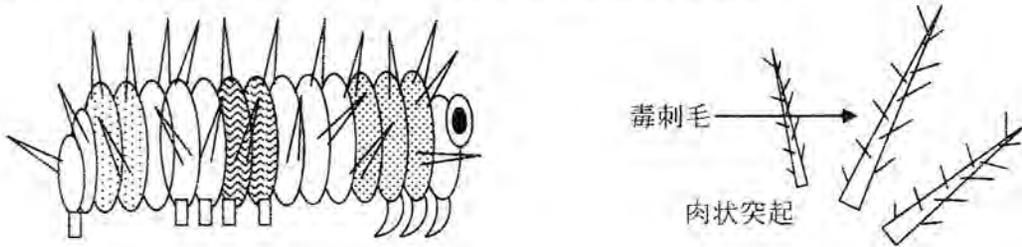
今年を回顧して、来年は当会の活動にもっと参加できるとすばらしいと思う。

やさしい昆虫講座 (第3話)

木村 裕

今回は毛虫さんからのアンコールに応じて続編を紹介します。

ドクガ類やカレハガ類の幼虫(毛虫)が毒毛を持っていることは理解されたことと思います。では、成虫の蛾はどうなっていると思いますか？ 基本的には毒毛は持っていません。しかし、ドクガが多発すると灯りに集まってきて、毒毛を撒き散らし、人に対する被害が発生する事例がときどき報道されています。それは毛虫が蛹になった時、幼虫時代の毛皮(抜け殻)が蛹の周りに残っていて、蛾となって飛び出す時にその毛が体に付着するため、あたかも成虫が毒毛をもっているかのようになります。日本ではドクガ類の被害はかゆみのみですが、熱帯地方では、ふさふさとした毛に触れると猛烈に痛みをとまなう恐ろしい毛虫がいます。現地の人も怖がっています。



毛虫類のもう一つのグループは柿の樹の住人のイラガ類です。ケムシほどには多くの毛はありません。体はなまこ状で、刺状の肉質突起をたくさん備えています。この突起には短い尖った毒刺毛がいっぱい配置されており、それに触れるとピリッとした痛みが走ります。この刺毛が皮膚に突き刺さるのかどうかはよく知りませんが、しばらくの間刺された部分に手を触れると電気に触れたような痛みが走ります。しかし、この痛みは1時間も経てば治まりますので、被害部にさえ手を触れなければ問題はありません。私が以前赴任していたパナマで大きなイラガにやられました。痛みが激しく、1時間ほどどうなり続け、とにかく泣けてくるほど痛かったです。それに比べると日本産は赤ちゃんみたいです。イラガの仲間には、アオイラガ、ホソヘリアオイラガ、テングイラガなどいろいろいますが、最も多いのはアオイラガ(黄色で背中に青い筋がある)で、柿のほかいろいろの街路樹(サクラ、カナメモチ等)の葉も食い荒らしています。

チョウの仲間にもケムシがいます。スマレにつくツマグロヒョウモン(レンガ色)、ホトトギスにつくルリタテハ(黄色)、アザミ類につくヒメアカタテハ(黒褐色)など、幼虫はたくさんの肉質突起を備えたケムシです。体型と色彩が派手であることで、皆さんに怖がられています。毒はなく手で触れても安全です。しかも成人?になれば別嬪さんに生まれ変わります。

変態

昆虫は卵から成虫になる過程で、脱皮をして姿を変えて行きます。卵、幼虫、蛹、成虫と姿を変えてゆく過程を**変態**と呼んでいます。幼虫と成虫の姿がまったく異なるグループ(チョウ、ガ、カブトムシなど)では体の大幅な作り変えのために蛹の時代を過ごします。一方、バッタやセミなどのグループは成長するにつれて、羽根の部分が大きくなり、最後の脱皮をすると本当の羽根となって広がります。学問的には蛹を経るグループを**完全変態**、蛹を経ないグループを**不完全変態**と呼んでいます。

とりにしりぞ

お正月ですので「ウソ」・「鶯替え神事」

小田 久美子

ウソは、落葉広葉樹の森で木の冬芽や花芽を食べるちょっとメタボな鳥です。林の中で「フーフィー」と口笛のような声が聞こえたら梢を見上げて下さい。大好きな冬芽や花芽でのランチタイムに出会えるかも。因みに口笛のことを「うそ」といいます。桜の名所ではちょっと嫌がられますが、ぜ〜んぶ食べつくすことはないので大目に見てやって下さい。各地の天神様には「學」と「鶯」の字が似ているからという一説の「鶯替え神事」があります。代表的なのは1/17大宰府天満宮から始まり、1/24・25は大阪天満の天神さんでは「替えまひょ、替えまひょ」と声を掛けながらウソのお守りを交換します。同じ日、東京亀戸天神など、道真生誕地の奈良菅原天満宮では、2000年から70年振りに復活した神事が行われます。道真公は生没共25日なのだそうです、ここは6/25です。可愛い鳥と人間の嘘・天神、面白いトリあわせですね。



ちいきじょうほう

★11月ウミアイサ(水上池)・ノゴマ子(我が家の庭)・シベリアジュリン(東院庭園)
(小田)

★自宅(樫原)の庭に毎年欠かさず来てくれてたアオジの「アオちゃん」が今年は姿を見せずチッチの地鳴きも聴こえず…。どうしたのか心配。補うようにウグイスがジャッジャッ。この頃目立って増えてきたメジロがなんとも賑やかにチュウーイチュウーイ。ヒヨドリにいたっては干し柿をたいらげ「ご馳走様！」と挨拶するように部屋を覗き込んで飛び去りました。
(斎藤)

★「斑鳩より」三室山近く神南のエノキとムクノキの大木に連日イカルが来ています。お庭の持ち主さんも今年は来ましたねえ。と関心を示しておられました。農家には豆まわしと言って嫌われているとも…。私たちは姿と鳴き声で追っかけをしています。

イカル



コウテイダリア

(勝田)



「命輝け京都第九」コンサート

大石門三

「音がつながる 人がつながる 心がつながる」そんな標語で三々五々人々は、深まり行く秋 11月7日心躍らせ京都コンサートホールに向かって。なんと 1833席の会場はほぼ満席、ひしひしと心地よい緊張が漂う。聴力を失っていく苦しみの中で作られた地球市民の歌、ベートーベンの交響曲第九は隔年開催でもう第九回を数えます。そしてハンディのある人もない人も共に人間讃歌で絆を創ろうという趣旨のもと。私たちNSK混声合唱団（N奈良S障がい者K健常者）の選抜された11名は三回の合同練習を経て大先輩のこの会に参加しました。第一部は勤労障がい者長崎打楽交流団「瑞宝太鼓」の力強い身体から心から、雰囲気空間まで響き染み渡る和太鼓の連打に酔いしれたものでした。知的障がいというハンディを乗り越え、「人が好き、人との出会いが好き、好きだからたたく」を合言葉にして年間100回もの公演を重ね、海外へも出向いています。さてその「命の第九」ですが、ソプラノ、アルト、テナー、バスの他に、新たに第5パートで構成されています。この第5パートは、「声や言葉をはっきりと発することの出来ない人も歌えるよう」創られた音域の狭いパートです。それから聴覚にハンディのある人にも味わっていただけるよう「手話隊」が、リズムカルに歌詞や音楽性を全身で表現しています。健常者の4声パートは230名、「5声と手話隊」で178名総勢408名のメンバーが独唱者と共に、京都市交響楽団田中良和の指揮により奏でられた。4声パートで特筆ものは、小学生がお母さんとともに出演したり、大学生の参加など、着実にその活動の輪が広がっているのです。この日に向かっての練習会場は第5パートは京都、宇治、枚方、高槻、奈良（青葉仁）、東京東青山の6会場、4声は京都、城陽、滋賀、木津川それに我が奈良のNSK混声合唱団、都合11会場の仲間構成

されました。その4声は第九の演奏前から舞台へ整列し、第5パートの皆さんのみ第三楽章が終わってからの入場となりました。今日のこの日を迎えるにあたって、指導された先生方、介護に当たられた人たち、またそのご家族の方々にとって本当に感無量の舞台であったであろうか。特に電動ベッドでの参加の重度障がい者は移動だけでも大変なのに。

京響の奏でるメロディーは第三楽章へと。指揮者は指揮棒を第二バイオリンの楽譜台に置き、天上の調べか、はたまた奥京都八瀬大原の小川の流れか、アダージョ・モルト・エ・カンタービレの心豊かな安寧のメロディーを酔いしれるが如く、時に微笑み時に厳しい眼差しで。そして第四楽章に入り力いっぱい歌い終曲した。皆夫々の想いで、心かぎりホール空間も一体となり奏でられた。舞台上右側では6人の手話隊により、第九の歌詞や音楽性をダイナミックな演技で華をそえ、ただただ感動感動の嵐であった。第五パート席からは歓声やときめきの声、話すことの出来ない人の喜びの嗚咽か、身体一杯震わせ喜びを全身で表現していた。何がそうせしめるのでしょうか。雰囲気でしょうか、波動か、否五感を超越したスピリチュアルな純な心なのでしょうね。ここ会場の人々も、道行く人も「全ての人々は兄弟になる Alle Menschen werdenn Bru"der」そして一人一人の命が輝き大切にされる、そんな社会であることを念じ願い、暮れなずむ空のもと、参画出来た喜びに浸りコンサートホールを後にした。



鳥：おい、その木切らないでくれよ！！
 人：何で。
 鳥：だっていつもここからうまい物を探すのに格好の場なんだから。
 人：そうだったのか、お前達の気持ちも考えずに悪かったな。でも森の元気を保つには適度に間伐しないとな。いずれはお前達の好みの実も多く出来る様になるよ。
 鳥：本当かい、それは大いに有難い事だな。

人：我々にとってもお前たちの歌声やきれいな空気を吸って命の洗濯が出来るってものさ。
 鳥：なる程、うまい理由を考えるものだなあ。
 人：時には巣箱や果物のサービス

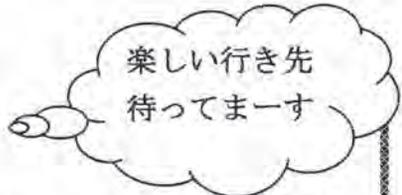


竹本雅昭

鳥の心配事

させてもらうよ。
 ありがとうよ、
 鳥：歌のうまい連中にも良く言っとくよ。

「例会」来年度行き先 大募集！



主に奈良県内の自然観察等による研修会である「例会」は、わが会の創立以来、毎月実施している伝統ある行事です。「ならやまフィールド」の作業に参加されない方も、会員活動ができる場として、力をいれています。
 来年度の年間計画を立てる時期となりました。来年度は11年目を迎えますので、これを機に、会員皆さまから広く「希望行き先」の大募集をいたします。「最近、例会に行っていないなあ」と思われている方、「まだ例会に行ったことがない」と思われている新しい会員の方、どしどしご希望をお出してください。

ご参考までに、過去10年に行ったことのある「行き先」をご覧ください。この中からでも結構ですし、新しい「行き先」のご希望もお待ちしています。自然観察に限らず近畿の古い「歴史探訪」なども新しく企画できればと思っています。
 一泊のバス研修も大歓迎です。
 下記 事務局の寺田(孝)までご連絡ください。例会ご担当の弓場さんにご相談いただいても結構です。皆さまのご希望をお待ちしています。

応募先 事務局 : 寺田 孝)

思い出の「例会行先」(年度別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2001年							高円山と 大文字焼	当尾の里 紅葉	フイールド 調査	講演会	冬鳥観察 と古墳	追分梅林 矢田公園
2002年	明日香村 野草料理	奈良公園 巨樹・古木	春日奥山 巨樹・古木	—	神野山 自然公園	葛城古道 彼岸花	大台ヶ原 紅葉	明日香村 飛鳥源流	奈良公園 ムササビ	講演会	奈良公園 野鳥観察	大宇陀森 野旧薬園
2003年	葛城山 カタクリ	奈良公園 自然観察	黒髪山 クラフト工	—	和佐又山 一泊研修	明日香 彼岸花	生駒山麓	天川村 みたらい	大和三山	講演会	奈良公園 野鳥観察	奥明日香 野草料理
2004年	吉野山 宮滝から	神野山 自然公園	生駒山麓 千光寺	黒髪山 クラフト工	十津川村 一泊研修	仏隆寺か ら室生寺	明日香路	正暦寺	談山神社	講演会	崇仁天皇 棲	信貴山
2005年	竜鎮溪谷 室生寺	高取山	稲村ヶ岳 シヤクナゲ	生駒路Ⅲ 植林観察	—	春日山 御蓋山	赤目四十 八滝	当尾の里	平城宮跡 野鳥観察	講演会	三峰山 霧氷	西吉野津 越福寿草
2006年	大仏鉄道	青根ヶ峰	宇陀 伊那佐山	長谷 天神山	—	巨勢の森 風の森	吉野 妹山樹林	菅爾高原 一泊研修	春日山 原始林	講演会	白幡池 野鳥観察	賀名生梅 林
2007年	高取城跡	吐山・向淵	宇陀森野 旧薬園	海住山寺 恭仁寺	—	葛城古道 彼岸花	近つ飛鳥 観福寺	奥飛鳥	平群氏里 古代豪族	講演会	平城山佐 紀古墳群	山の辺の 道
2008年	大仏鉄道 鹿背山	明神平	天の香具 山万葉森	宇陀八房 杉青蓮寺	ならやま 里山林	赤埴の巨 樹仏隆寺	大和三山 藤原京跡	吉野川 源流	山背古道	講演会	琵琶湖 探鳥	壺坂・高取 城跡
2009年	平群 花の郷	八つ房ス ギ	金沢・能登 一泊研修	ならやま 里山の夏	—	赤埴巨樹 仏隆寺	生駒路 自然文化	奥明日香	柳生街道 滝坂の道	講演会	大和川 野鳥観察	西吉野津 越福寿草
2010年	当尾の里	京都府立 植物園	橿原市昆 虫館	山門水源 の森	積水ハワ ズ研究所	竜鎮溪谷 室生寺	ならやま 周辺遺跡	みたらい 一泊研修	西の京 唐招提寺	講演会	山の辺の 道野鳥	信貴山 桃源郷

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト1月・2月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）

—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時： 1月 6日（木） ならやま初出・新年会（ノーマイカー・デイ）

1月13日（木） 活動日

1月20日（木） 活動日

1月27日（木） 臨時山の日

1月29日（土） 活動日・実習生受入れ

1月31日（月） 雨天予備日

2月 3日（木） 活動日

2月12日（土） 活動日・実習生受入れ

2月17日（木） 活動日

2月24日（木） 活動日

2月28日（月） 雨天予備日

集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発 JR奈良行（平日）

8：30発 JR奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品： 弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、寒さ対策

*環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

活動内容： 里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り

・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り

・「市街地にある里山」を体験する各種イベント

*1月6日 ならやま初出の日には、餅つき、七草粥のほか少々のアルコールも出ますので、マイカーでの参加は禁止といたします。

連絡先： 担当幹事 古川祐司

鈴木

☆ならやま・バードウォッチング

★日 時：1月11日(火) 9:00時集合

☆集合場所：ならやま駐車場

★小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

☆担当者：小田 菊川

【1月度 例会】

平成23年 新春講演会 ご案内

平城遷都1300年祭も終わり、2011年の輝かしい新春、恒例の新春講演会は平城遷都で活躍された藤原不比等の三女で、聖武天皇のお后・光明皇后の足跡を元奈良大学の学長水野正好先生にお願いして特別講演会を開催いたします。

多数のご参加をお待ちいたしております。

日 時：平成23年1月22日(土) 午前10時より

会 場：奈良市中部公民館 奈良市上三条町23-4

演 題：『篤く仏を信じた光明皇后』

講 師：財団法人 大阪府文化財センター 理事長 水野 正好 先生

話題提供：「ならやま・四季の昆虫」 菊川 年明

午 後：「ナラ枯れ」現場観察会(奈良県有地) 奈良市川上町(二月堂裏)

* 22年8月に若草山周辺で初めて確認された「ナラ枯れ」の観察会を実施いたします

集 合：東大寺南大門前 午後1時30分(昼食は各自で済まして下さい。)

持参物：観察用具 飲物 防寒対策

担 当：阿部和生 弓場厚次

<2月の予定>



2月例会「山の辺の道」野鳥観察会

日 時：2月9日(水)

集 合：JR柳本駅前

コース：柳本から天理へ

担 当：小田 勝田

*詳細は会報第109号(2月号)でお知らせします。

平成 22 年 12 月度幹事会報告

日 時： 平成 22 年 12 月 7 日（火） 18：00～20：15

場 所： 中部公民館

出席者： 計 13 名

- (1) 11 月末現在 会員 132 名（1 名増）
- (2) ならやま里山林：11 月の参加者数 203 名（内ビジター 47 名）
- (3) 佐保自然の森：「ならやま」とは異なる方向で進め、地域とも連携して長いスパンで開発。
- (4) 全国植樹祭イベント：平城宮跡。工作指導が好評。
- (5) 23 年度候補地案 1 月企画会議で決める。

表紙のペン画によせて

境 寛

奈良・人と自然の会のベースキャンプ最寄駅の JR 平城山駅前の十二支の石像モニュメントをご承知だと思います。その「ウサギ」を書いてみました。

干支の「卯」については、日本大百科全書（小学館）に次のように書かれています。十二支の第 4 番目。「うさぎ」「ぼう」ともいい、十二支獣としてウサギがあてられる二月の異称として「卯の月」の語がある。正月の初めの卯の日には、悪魔払いのため、ウメ、モモなどの木を束ねてつくった卯杖（うづえ）で地面をたたく行事があり、11 月の大嘗祭（おおにえのみまつり）の初日は卯の日で、この日には「卯の日の祭り」が行われる。時刻としては今日の午前 6 時を中心とした前後 2 時間に相当する。方角としては真東にあたる。

私たちがウサギと言え、神話の因幡の白兔でしょう。ワニに毛をむしられて大国主命に助けられた白兔の説話から皮膚病に靈験のある神として鳥取市白兔の白兔神社祭られています。

編集後記：* 去年は会報が 100 号を迎え、そして今年当会が設立して 10 年目に当たります。いずれも会員の皆様のご協力あつての結果です。今後もさらに各行事への提案・参加、会報への投稿などいただきますようお願いいたします。

* 会報発送作業・編集会議日：2 月号の作業は 1 月 28 日（金）午前 9 時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。本年も何かとお忙しいでしょうが、ご協力お願いいたします。

編集担当：勝田 均

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生